

## 幽靈のいる現代空間で生きる 中国の現代民話についての社会学的研究

Living with Ghosts in Contemporary Society:  
A Sociological Study of Modern Folktales in China

趙丙祥

### 【論文要旨】

従来の民俗学や民間文学の研究において、現代民話は研究対象と見なされていなかった。その理由として、現代民話が伝統的な民間文学の形態からかけ離れているととらえられていたこと、また、現代民話が短命であり、ストーリーや構造が安定しておらず、研究対象として扱いにくかったことを挙げることができる。しかし筆者は長年にわたる現代民話の収集により分析に必要な十分な事例数をそろえ、研究の素材とすることを可能にした。

現代民話は都市民俗の範疇に入れられることもある。しかしながら、都市で語られるものと同じものは農村においても見いだすことができる。そのため現代民話は都市の必然的産物だと必ずしも言うことはできない。現代民話は現代社会に対して現れた反応の一種であり、同時に現代社会特有の現象なのである。現代化の進展によって、怖い話が示すような「迷信」はやがては消えてゆくと考えられていたが、実際にはむしろ2つの点において現代民話は現代社会特有の現象だということができる。第1に、主題・モチーフの分析により、現代民話は現代社会の秩序についての解釈と説明だと見なすことができるからであり、第2に、現代民話は従来のように口承によってだけではなく、インターネットなどの極めて現代的な電子メディアによって流通しているからである。現代化と迷信は必然的に相反する命題ではなく、現代化が進展したからといって、迷信は消失するものでもない。むしろ怖い話は現代社会がもたらした必然的結果の1つなのである。

いくつかの事例を分析した結果見えてきたものは、今日のリスク社会に生きる人々が無意識のうちに抱いている憂慮や恐怖感の現れとしての怖い話のあり方である。我々は高度に構築された体系を信頼して生活することによってリスクを回避しているのだが、このようなリスク社会に対して他方では恐怖心も抱いている。現代民話において語られる幽霊の姿が、伝統的な民間文学における幽霊のように怖さを強調する姿をしておらず、とらえどころのない姿をしているのは、リスク社会における対人関係を隠喩しているといえよう。現代民話における怖い話とは、現代社会の描写でもあるのだ。